古璧紀行

へ 5
4572

門へ5
4572
巻

門儿
1304
巻

京都帝国大学図書之印

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

調度なども兩具の外なるべし小名浜の名所を眺めて
本津雅はのあきらかのもの今先のしく杉のし
廣田社を拜し蓬壺山よりいるしい松やけのあと
日ちく佛宝宮の勧行より訪なる音樂ハ虚空な
響ちり五重の塔を朝霧みまれ見きて俳
杉えを袖を靡きやとのやしを松のく心耳を
事問し感涙をもちほを仮ちを乃旅にて
行人道をゆつり行きた庫裏の怖を見く
目をとる佛代をたつの事ちれ杉ほけふく
國恩を拜謝しまちる彩をかく なる

寄附のはちを紙に盛るにあらのしし野乃
杉をしの乾ちれ足跡おしるれしていく条中
此歌

茶のおやはしるの奥を金峰山　馬常
春ちを生駒うちる　頼　射候

曽井寺より指次
金星儀しゆく身や就自立　呉縞
法深しいまを花の大悲閣　候
堂来なる迦弗法や蒙乃雲　常
仏の内峠よかは

山之一ぬまに出けるに夕雲雀　徳

雪より役行者此所に水をおとしたまふ清出る水
あまりにやすかるゆゑ水の底にて口を閉
しとなり者ぬくく

高い山ゝ遠くゝ半ば雪解水　常

休の間をいまゝやく消る彩雲たまきる今
終ゝ見つゝ一ふゝ山をあゆる水一
黄昏の家ゝ見ぬ

廿一日新庄を出発所の町を通て天狗茶屋
堂一ゝ人通の廻を休めまゝ車坂を過る

風景ゝ見ひ董の花部ゝ咲て
作ゝ稲の緑雪雪間ゝ新ゝ
所ゝ作ゝ者ゝ多ゝ指ゝ芳賀川ゝ
めゝゝ行る

山峯ゝ見ゝ多ゝ山ゝ掛や車坂　候
ゝゝ見ゝ衆山重ゝ一ゝ我ゝ知
ゝ後ゝ見ゝ多ゝ

指折ゝ八きの一ゝ遠一　かき巌　常

下市ゝ掛新ゝ多ゝ孫ゝ六田ゝ
芳賀川柳ゝ孤京何ゝ

暫く眺めるよりなすこと

あらし吹き出づる波の杉伐り絡

重ねて消しつ伐りの音絶ず俳

もの川や浮世の波の杉いつる事 常

少かれ小童の桜苗を植ゑ遍

植ゑ〳〵ゑこの後の種や苗桜 常

笹本のさゝらいつまでもぶし羽〳〵杉ぶし

まゝと中の花ゝよりんめ彩と西伊勢の杉ぶく

一目千本は真盛りなるハ

すハ千本 射ゝやく 義の的 常

京都の小國日和乃山 俳

夕雲に有ゑ花のゝ雲山 絡

矢倉久義よ止宿居ゝ谷ゝ此義を眺む

橋やあるゝ長乃ほいまく 俳

義よ花ゝあゝもや花の宿 絡

去ゝ流れ千年の伊と向ゝ

ゝ寺や雲乃〳〵此杉伐り 常

二十二日 俳

如ゝ絡ゝ杉ゝ義遠の観音と

如ゝ絡ゝ堂前よ足を止ハ山つゝ毎なく

珍ゝ音よ杉ゝく尊くとゝ〳〵ゝて安堂

いつの一くあらをつくれハ人家形大なる杉の
高くそびえたる梢のこゝハ鶯乃啼まと心ゆし
らいよ〳〵めゝく耳をはらくしたれハ三聲
半りよ又二らをさくさく清音みゝ花やゝ
淋しく所をゝ毎面白し折ゝ老女の
出さるよ志ゝく乃ゝ紙かゝ杉を鶯とゝ
鳥ゝ中毒ゝ峰ゝ山ゝ谷ゝ鳴ゝ
よ今ゝゝゝ角くゝ杉ゝ天の物
哉ゝゝゝ神ゝ山ゝゝゝ取
所へ次

天地ゝ舞ゝ笛ゝ響乃響　結
素盞ゝ詠ゝ詠ゝ川ゝ岸の琴　候
かゝ孫きゝ我言ゝ吹ゝ深山ゝゝ

俤藤ゝ山ゝ吹ゝ乃琴　常

花やゝゝ　滝さゝゝ　ゝ井櫻

幕ゝ幾重花の櫻雲一　候
ゝゝ乃ゝ御ゝ毎義の別世界　徳
子孫の神
山神の驟一毎ゝ花日和　常
苔清水

[illegible]風奥の岩間水　繪
[illegible]の流れ　佳
[illegible]毎　山石[illegible]水　常

西行　蕃[illegible]

打ち出やはらぬ[illegible]奥のおもかげ　立

[illegible]寺[illegible]接て通る我まち乗音を
三男乃[illegible]仏[illegible]院の[illegible]て一[illegible]
[illegible]宿へ帰[illegible]千[illegible]の夕[illegible]と出る[illegible]
[illegible]杜陵の[illegible]水[illegible]
[illegible]と同道して[illegible]寺を[illegible]皇居の

[illegible]を拝見し[illegible]家の[illegible]七
曲り坂を[illegible]左右と毎さ[illegible]
[illegible]雪中[illegible]道を[illegible]下の谷を[illegible]
四[illegible]又日[illegible]の[illegible]の[illegible]言語道断[illegible]

芳山の満花[illegible]

[illegible]日の新しき[illegible]　常

[illegible]杜陵の新宮と[illegible]
一典を[illegible]て[illegible]
谷の花[illegible]服を[illegible]て[illegible]の身[illegible]出[illegible]
[illegible]坂[illegible]石[illegible]

杜陵八幡宮に詣て鳥居より和歌の浦を眺
望する所にて
かすみさと答ふる山自幣を捧げ花の一巻を期
して袖をうち坐王持現を賽して仮具の
方へ赤絵をしたる絵山花園山をうたひて
七曲りの花をうばはん弱音より軍出るとい
へるもむべうなるやきくに野山の絵は一巻
にうかべり五歩よ身ひ絵の絵角してうたて
まを絵は見大神迫なりてやはらぐの絵をうた
ひつ

咲をさそふ秋萩を花ちりやせの　常
ゆゆしき一命を切て仮見へ下り桜ぬらす秋越
妹背山　編
長雨のうち千代をかけゆゆしき山　編
紫世をへ妹背乃山のまもれる　俳
いろ〻幣や花の姿絞川乃音　常
上市を出千峰を望む年経ぬ峠のぼりきよ
孤舟をうにつれ少一角ゆゆしきうまうち
行をぬふ「常云」
杖と笠の古れを小町よ似ると絵云　勝のかをし

ものと三人ばかりて大なる笑ひ幸うして滝の畑
ゆくふ所く下に青苔を敷かなるもの
高野を左にみて法華へ行 詩平よ
高野の御堂——後く峰雲雀 常
多武峰神樓美霧を——一山際く僧坊
秋のさくらゆつまを咲くれて志ほの寂寥ら芳
野さの川水の花の平宿と西上人の後七世の孫とも
蟬 拂ふ口笛こるる——多武乃峰 常
雲間の幾年賢——言とく後 俳
地恩寺村ゆく長谷の屋根ゆ見ゆ

峰ゆて紅世音寺ゆ前ゆ春
祈ゆてよりゆく初瀬の春祈利 俳
ゆけばふ祈ら——泊瀬の山さくら 編
一山の陽あて一白をうるて
又春よりゆくこゆく梨 初瀬の夜 常
古寺ほとふ出ゆ 此句けやゆきゆくゆくれと
ゆくれハ花ゆ
佐野く後ゆ
笠とあて見ゆを笠を 二輪の崎 編
ゆくゆくゆく海の雪道 二輪のさき 俳
二輪の時 袖ゆくゆくゆく 紅ゆ春 常

三輪明神をねぎ

[illegible]乃杉の梢の邦　倫

玄賓僧都の庵　行[illegible]山に入る[illegible]

[illegible]

[illegible]　常

[illegible]　倫

[illegible]の穴師の山[illegible]

[illegible]

紀の貫常の[illegible]別荘の網中古き梅の

[illegible]二三十山際の方へ[illegible]の梅乃[illegible]

[illegible]を其道[illegible]畑と[illegible]

[illegible]生[illegible]井と[illegible]

杖[illegible]方四五尺[illegible]

紙[illegible]千歳の紀念[illegible]

[illegible]折[illegible]

筒井ぼ[illegible]　佐や書乃子　作

春[illegible]老[illegible]筒井て　倫

[illegible]

[illegible]井筒[illegible]の御[illegible]　常

[illegible]

[illegible]川や弥生のちり　案内者　編

般若寺　乞ちはの石　雲井坂　夷乃橋

東大寺

撞かねも　霞の奈良の　二月堂　編

千向山

[illegible]の[illegible]向山　常

三笠山

[illegible]中三笠山　仙

春日社

[illegible]中藤の花　編

春日聖　幸川　雪山の陰　聖の後

若草や我も聖乃　捨火打　常

無福寺　八重さくら

[illegible]奈良法師　仙

平城の夜泊　十三夜を出く

[illegible]　廉　常

[illegible]西の京薬師寺　拓拾寺へ京都[illegible]

伏見の里

菅原や[illegible]親つれめ　仝

聖廟　法乗

[illegible] 佛

[illegible]

[illegible] 編

[illegible] 常

西大寺　柳かく[illegible]

一尺の[illegible]書をあらみとり　編

[illegible]や[illegible]よく玉の[illegible]柳　佛

感じていと宮も[illegible]たる柳ふ　常

秋篠が山を西[illegible]ふ一二条村を[illegible]の[illegible]

内裡[illegible]四[illegible]松あり法[illegible]を[illegible]

土大城中[illegible]律宗の法[illegible]の大き尺[illegible]

乃[illegible]

西京懐古

梨の花[illegible]似[illegible]つ[illegible]乳　常

菱[illegible]家[illegible]娘吐[illegible]を通[illegible]園[illegible]机の[illegible]

藪の[illegible]を越柏の里[illegible]井[illegible]里を山[illegible]

[illegible]て山[illegible]玉川を[illegible]玉[illegible]

中[illegible]川やから[illegible]　佛

玉川の[illegible]を[illegible]やうん　編

山[illegible]見[illegible]

玉川中　塩ものを　はこぶを　常

長池の驛ぐらを　たゝぬ　田の道すゝ　ゆきゝの旅
ハ　まを　平等院へ　参詣　人　ありとも　頼政六百年忌開帳

能因　なとゝ　ゆかぬ　ものも　あるを
群集　なん　哀を　たゝ　巨樹　利
農家の　ゆゝ　ゆゝ　ゆく　ゆく　知る
とり　系　空　ゆゝ　日も　暮て　ゆく　家に
いなる　川　ゆゝ　ハ　池　ゆゝ　ふ　園　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　瀬　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　池　を
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　船

ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　伏　ゆゝ　ゆゝ　船場の
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ

船中の吟

名所の　ゆゝ　ゆゝ　係　乳や　楫枕　侯
行書を　ゆゝ　ゆゝ　汲　多ん　侯　ゆゝ　常
書の風　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　風ふや　掉の弘　縞

かなしき心を結ひし衣ころのけ甚や
あまの紅葉を埋まんと翁に折ふし風葉丈
詠くされひとり伝花の浦山しく唯
し花のきれくしかまとゝいへる事

うたゝねの夢や桜か影ほうし　女之

年も弐冊の俳書の事の書残し
侍りしも詠なく人の帰りのふし
ほとくの中のさうまりうとえ出
出しく発くの志ゝ道もつきまく
うつれ折ふしまめく侍る

山や雲花や埋し耳の穴　ま記

野坐を嵐山の満花に於て

花の今筏を以てをる流之　天真叟

杉翁とゝめ家に立ちさりけるなん此より月影
かの對更に清らかりて杉より詠さまる
志のゝ夜をむ宗や八月十三杉
とてもとほとちはしよ柳しき
轟して杉哉し呼歩みする人もうち
杉とり詠て出我戸をも探すりしそ我ハ女之
ゆるその月をまことに出て旅をありける
いさゝかとやみに轄を投し例の陶淵

寂寞に松むしの聲のみちてたゝ
ゝ素性しる作者は実
さ知しる体しるもなくたゞ川更
科の月をおもふ波中丹穂てる影ハ
めゆ行んと須磨あの一ほ行
雁を聞しといひてつるからさ後を意
くこゝ後社関寺やまゝ嵐覚やすんゝ
松もと乃頻を聞ハ人もゝやゝ川を見の素

ゝ所何のかゝりもなくはや
指ゝ後所物ゝもおくゝ
堀ゝの秋を通りて

十四日快晴船

兵庫の問屋へ下ゝて船を筑前
續ゝ孔ハ郡より系金藤人も船上系と
屋ゝん人の舟長とあゝ船ゝ
ゆゝを川口より帆はゝ後ひすゝ
夫の刻ゝ

珠や松ゝ寂ゝ川實に寶船　馬常

漕出すや論たちまち秋の音　女之
雲清し翌待月　陸日和　まき記

夏ちかくまよる空の雲ふかし
海原やまこと木がくれ　之
綾書し月を伝る清水　迷

南ちかく舟こぎ入をいまつく蓮の名所
に帰る杉の中毎いまつる夜の明れい旅寝
角めくふよりや降出ん杉のうきなれい

杉の社ひとすぢ杉田
きんとぬきいまつる

生田のうら
朝うの雨や寒ふ入むこ丁ぶ　之
西ぶ名物梅
すハ二度のうぶや籠の梅ぶ　まき記
楠子之墓
石ふ墨くぶ玉の名ぶ光　之

所の系譜にして敷衍て藤川　速

鳴呼秋の所もとやなきかたこ　常

苅藻川

為綱る墨の苅藻や川の秋　速

章明塚

鬼灯もあるし雑の引合せ　立

てこ墓の古墳を訪て

兵の脱捨まぬや草花之

須磨寺

寂寞淋しぬよ淋しい須磨の寺　之

毋衣まぬ法秋や須磨寺　速

若木の法

骨柳仮の木枯下法や秋の雪　立

あるまるまる秋の雲をくくる糸

豊白ゆくなんぬ

順徳の系譜もや須磨の秋　常

一の谷

二ヶ所の川山荘や逆旅し　速

古戦場

弓杖を折るく霜しき栗山ふり　仝

敷盛の墓

笛吹き音の果や浦寂れ社の風　之

賓客多く落ちて寿永の梅ちる　速

まひまひも舞しき名のみ花鳥　常

西ヶ浦降ると小雪ちる後雲

やうやう秋も折ふる鰯のみ寄りし

ちくあこちちちちちちちちちめ

つるかな後雲の雲

引ちや網海の鰯乃新世界　之

初秋や磯に枝折や須磨の八　速

眺望

厂ひひひひひひ蔚亜や後後亜　仝

三夕の宋玉秋の何ちし由　之

少青や明石の神乃雲の光　常

あるしのをうなの小揖よきらくと
なるまゝ瓦上を撲えぬるつゝ
糸〳〵を降——れのくるまかゝるまく
とゝまる心ほるうをそ

降る須磨やうゝへを重ね刻 鈴之

悄風窓の骨を鳴らす鈴 速

十五夜

やゝ陰りひなる暑さかな
雲のあるかたもかゝる

さもあらぬ絵をかゝ賞身する浦の月 常

ちゝまつゝ絵をかゝ

六月須磨やうゝへを起ゝ雨の月 之

——はゝゝ清光をうゝ

雨ふるゝ——晴ゝ空を須磨の月 速

名月や雨ふるゝ須磨の松 之

雨ふる雨天なるを八丈いてんと毎年
市国ふるゝ

秋雨や数ゝ杉ゝけ須磨の蜜 之

さ稔ハ秋 詠ハ雨をすゝの雨 速

秋晴胃感

伽羅[illegible]能一[illegible]須广の秋　之

[illegible]日[illegible]

宿を立て和田坂を登れば[illegible]

[illegible]和田明神を拜し一岬を伝ひ屋烈

しく徑の[illegible]松五郎童の舊伝称つたへ[illegible]

船場に出[illegible]家[illegible]

少く出[illegible]船をおほつかなしと[illegible]

きんぐ[illegible]を渉るとはなく

敏馬浦

[illegible]浦や老小舟　速

みるめかり中三大女社蟹の袖乃秋　之

求女塚

[illegible]一[illegible]　速

[illegible]原[illegible]

[illegible]

[illegible]

既に雨や荒魂ぬれ石 速
又たび雨ふる神垣の月見哉 之

夜もすがら弘雨の音ハ
笠ぬ[illegible]

霧耳ものこる梅はぬ秋 速
雨走る尾原 海やや十六夜 常

十七日 降ぬ[illegible]
出[illegible]西の空よりやはらかに[illegible]
時雨[illegible]

やゝ寒く袖やひなの脇まもり 之

如[illegible]儒[illegible]藤[illegible]母の
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]雨[illegible]の
[illegible]れハ心[illegible]て
[illegible]

教盛卿の巻

笛の音に糸やゝ風

秋の風